

平成30年度

新地町歴史講座

「アンバ様」をめぐる民俗は、稲敷市阿波にある大杉神社ほうそうに由来する。享保10年(1725年)、「悪魔払え囃子」が始まり、その流布に伴って疱瘡除けや水上交通の神として、沿岸部を北上していった。

東北地方に入ると、漁を呼び込む神となり、あるときは激しい海上労働を忌避するために臨時に祀られたり、豊かな変容をしながら定着していった。この近世の流行神の一つであり、ご神体のないユニークな神の信仰と民俗について、茨城県から岩手県まで見渡すことで、漁師たちの精神的世界を覗いてみたい。



山田町のアンバ様の祭典

講師プロフィール

川島 秀一 (かわしましゅういち)

東北大学災害科学国際研究所教授
文学博士、民俗学

略歴 東北大学図書館、気仙沼市図書館
リアスアーク美術館、神奈川大学常民文化研究
所、東北大学災害科学国際研究所
日本カツオ学会長

著書 「海に生きる作法—漁師から学ぶ災害観」
「漁労伝承」
「追い込み漁の民俗学的研究」
「津波のまちに生きて」他数多



釣師浜のアンバ様



釣師浜のアンバ様の祭典

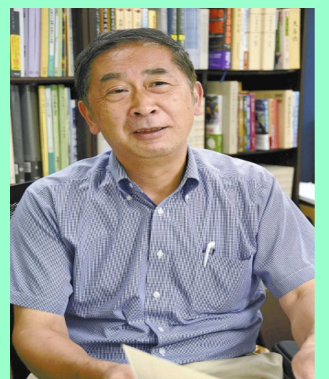


北海老のアンバ様の神札

会場 新地町農村環境改善センター
(新地町図書館に隣接しています)

日時 平成31年 3月 2日(土)
午後1時30分～午後3時

演題 「アンバ様の信仰と民俗」—近世の流行神の展開—
講師 川島 秀一 (文学博士、災害科学研究、民俗学)
主催 新地町教育委員会・新地町郷土史研究会
入場料 無料 皆様のご来場をお待ちしております



加藤潤一 さま

お世話になっております。

講演要旨について、このメールの中にてお知らせ申し上げます。

タイトル：アンバ様の信仰と民俗

ー近世の流行神の展開ー

要旨：

主に関東北部から東北地方の太平洋岸に伝わる「アンバ様」をめぐる民俗は、茨城県稲敷市阿波にある大杉神社から由来する。

享保 10 年（1725 年）、「悪魔払え囃子」が始まり、その流布に伴って疱瘡除けや水上交通の神として、沿岸部を北上していった。

東北地方に入ると、漁を呼び込む神となり、あるときは激しい海上労働を忌避するために臨時に祀られたり、豊かな変容をしながら定着していった。この近世の流行神の一つであり、ご神体のないユニークな神の信仰と、その民俗について、茨城県から岩手県まで見渡すことで、漁師たちの精神的世界を覗いてみたい。

川島秀一

「アンバ様」をめぐる民俗は、茨城県稲敷市阿波にある大杉神社から由来する。享保 10 年（1725 年）、「悪魔払え囃子」が始まり、その流布に伴って疱瘡除けや水上交通の神として、沿岸部を北上していった。

東北地方に入ると、漁を呼び込む神となり、あるときは激しい海上労働を忌避するために臨時に祀られたり、豊かな変容をしながら定着していった。この近世の流行神の一つであり、ご神体のないユニークな神の信仰と、その民俗について、茨城県から岩手県まで見渡すことで、漁師たちの精神的世界を覗いてみたい。